

## 博士学位論文内容の要旨

学位申請者氏名	太田 淳子
論文題目	要介護状態の高齢者に対する栄養マネジメントと、その実践のための給食経営管理
論文審査担当者	主 査 田中 清 審査委員 中山 玲子 審査委員 成田 宏史

本研究は要介護高齢者の栄養マネジメントにおける問題点を研究するとともに、給食経営管理における管理栄養士の役割を検討したものであり、以下のように要約される。

### 1. 要介護状態の高齢者の身体活動レベル(PAL)の推定に関する検討

身体活動レベル(PAL)は、推定エネルギー必要量(EER)算出に必須だが、要介護高齢者における適切な算定方法が明らかではないため検討を行った。体重・栄養指標が一定の高齢者では、摂取量=必要量となるはずなので、エネルギー摂取量を測定し、これを基礎代謝量で割ることにより PAL を求めるという新規の方法を開発した。

### 2. 食事摂取割合記録に関する検討

介護老人保健施設において、給食の摂取割合は看護師・介護職員などにより目測・記録されることが多いが、どの程度の自己効力レベルを持って行われているのかを調査した。全体としては高い自己効力レベルを持って評価されていたが、献立による相違があった。さらに種々の摂取割合の食事を再現して調査したところ、視覚的に明確な9割摂取や1割摂取は回答の誤差が少ないが、3~7割摂取ではばらつきが大きかった。これにより、管理栄養士自身が情報を得る必要があるとともに、各職種との間で、基本的な用語や記録法について認識の統一が必要であることを示した。

### 3. 要介護状態の高齢者に対する包括的な栄養ケア・マネジメントの必要性特に QOL 評価の意義

要介護高齢者の場合、家族など代理人から情報を得ることが少なくないので、その妥当性を検討した。介護老人保健施設入所者及びその家族に対して、QOL などのアンケート調査を行い、家族には高齢者本人の気持ちになって答えてもらったところ、QOL の精神的側面は本人より家族が有意に低く評価しており、本人においては入

浴・睡眠などが施設に対する総合満足度に寄与していたが、家族ではこのような結果は得られず、たとえ家族であっても、代理人からの得る情報には注意が必要であることを示した。

#### 4．給食経営管理における管理栄養士の意義(人事管理の視点から)

栄養管理において、管理栄養士は自ら情報を収集するとともに、関連職種から有益な情報を得ることも求められるので、そのために必要な事項を検討した。

まず関連職種の食事や栄養に対する意識につき、フリーコメントに対するテキストマイニングを用いて調査したところ、全般に食事や栄養の重要性は認識されていたが、看護職は医療面、介護職は生活面など、職種によって異なった面に関心を持っていた。

また自分を評価する際に、管理栄養士は自分のスキル、調理職員はしている作業が評価の対象となっており、給食の評価において、管理栄養士は給食対象者を念頭に評価していたが、調理職員は提供している食事が評価の中心という相違が見られた。

栄養部門は多くの職種によって構成される組織であり、統一的運営のために、管理栄養士にはリーダーシップが求められることから、リーダーシップ研究で一般的に用いられる PM 理論や LPC 尺度、職務特性の測定により検討を行ったところ、給食の運営において、特に管理栄養士のメンテナンス能力が影響することを見出し、メンテナンス行動を意識したリーダーシップの必要性を示した。

以上の研究を通じ、高齢者の栄養アセスメントにおける未解明の問題点を明らかにするとともに、管理栄養士に求められる資質を明らかにした。